

市名検討に関する経緯

1. 「丹波市」への市名再考を求める活動の経緯

(1) 市内 33 団体からの要望書 ・ ・ ・ 資料 1, 2

H15.7 月	市内 33 団体から氷上郡合併協議会宛てに「丹波市」名の再考を求める要望書を提出 意見広告（氷上郡民のみなさんへ）
---------	--

(2) 「丹波市」市名の再考要望に関する市議会における答弁の要旨

(平成 15 年 9 月)

答弁要旨 (H15.9)
「氷上郡合併協議会が一定の手続きに基づく多くの賛成を得て、新市の名称を決定されたことに対し、篠山市長として、その是非を判断する立場になく、それに干渉することは、来年 11 月合併を目指している氷上郡の合併協議に影響を及ぼすこともありますので、差し控えたいと考えております。」

(3) 有識者の意見

元篠山町長 新家茂夫氏の意見
①「丹波」のみで呼ばれる言葉の意味が、氷上郡を特定する大きな誤りをはらんでいる。 ②今回、氷上郡のみで、この名称を独占し、地域を特定することにより、篠山市民のこれまでの丹波地域に寄せる大きな夢と期待は、一挙に崩れていくであろう。 ③これまで、何世紀にも亘って使用してきた長い間の愛着、週刊、実績、成果、影響力など、あらゆる観点から鑑み、名称を混同する可能性が高く、特に篠山市民として「丹波」という名称をこころよく使用できる気持ちになれないと思われる。これは篠山市民にとっても、京都府の丹波地域住民にとっても大きな損失だと言わざるをえない。 ④これまで私たちが使用し、愛着を感じている地域名称「丹波」は、多くの地域住民（京都府を含む）の共有するふるさとであり、大きな知的財産ともなっている。そのような意味から、広い地域の共有財産、共有地名として歴史的に残し、そこに住む人たちが等しく共有する名称として、立派に後世に伝えるべきだと思う。 ⑤上記①～④の問題点から考えると、「丹波」という私たちの知的財産の所有権を著しく侵害する行為になると訴えたい。

元観光協会長 西尾 昭氏の意見
①丹波の地名を一特定地区が専有し、公称することは公序に反する。 地名は由来があり、長い歴史を通して先人が自然と人間の営みの中から継承してきた由緒があり、関係地域が共有するものとして尊重されるべきである。 他の市町の権利を尊重することなく、公共の秩序を脱する市名決定は紛らわしさを生じ、混同、時には混乱を招く。これは、他地域（特に篠山市）の尊い權益を侵す虞があり、権威を損なうこととなる。 ②氷上郡合併協議会の市名決定の経緯と独走姿勢に疑問をもつ。

<ul style="list-style-type: none"> ・丹波市を市名とした大義名分は何か ・頑なな進め方の理由は何か ・篠山市・丹波市間の自治体信義はどう考えているか <p>③丹波篠山市をしっかりと守り育て発展させよう 丹波篠山の現代があるのは先人の崇高な郷土愛で、英知と努力の結集で気づき上げた尊い、ふるさと財産である。</p> <p>④丹波市の市名決定に至る経過の中で、篠山市として適時に最善の対応をしてきたか。</p>

2. 「丹波篠山市」への市名変更議論の経緯

(1) 駅名、インターチェンジ名の改称運動（平成20年6月）

H20.6月	4団体(丹波ささやま農業協同組合、丹波篠山観光協会、篠山市商工会)から篠山口駅、丹南篠山口インターチェンジの名称変更について、市長、議長に要望書が提出される(署名12,752人)
H20.7月	JR西日本、NEXCO西日本に要望をしたが、改称に至らず。 <ul style="list-style-type: none"> ・JR西日本＝「過去の実績では5千万以上の経費がかかった。経費は市で負担いただく。また、市民総意でないと受け入れられない。」 ・NEXCO西日本＝「約8千万円かかる経費については地元自治体に全額負担していただきたい。」 ・両方とも、変更にかかる経費については全額市負担になることが前提であり、財政上の問題がある。市民の盛り上がりの運動がより必要という段階であり、その後の進展はなし。

(2) 職員プロジェクトによる調査検討（平成23年度）

<p>①プロジェクトの目的</p> <p>市民や市議会から提案されている「丹波篠山市」への名称変更提案に対して、市名の考え方や変更した場合の具体的なメリット・デメリットを整理し、市民やその代表である議会が適切に判断いただくにあたっての情報整理を行う。</p>
<p>②調査・検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市名の位置づけ（法的根拠、意義、他自治体の事例など）の整理 ○「丹波篠山」の位置づけ（使用の現状、ブランド力などの評価など）の整理 ○丹波篠山市へ変更した場合に想定される効果の整理、費用、市民負担等の整理 ○市民意向を踏まえた市名変更の効用と配慮すべき事項の整理
<p>③調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併時の議論の整理 ・市名等の改称にかかる動き ・「丹波篠山」の意義 ・市名変更の事例調査 ・市名変更の影響等 ・市民理解にむけての検討
<p>④事例調査</p> <p>調査箇所 岐阜県高山市及び飛騨市</p>

(3) 市広報による情報提供 (平成 23 年 5 月、10 月) . . . **資料 3, 4**

平成 23 年 6 月号	市名変更の是非と今後の取り組みについて ○市名継承問題検討プロジェクトチーム(職員 PT)の報告 ○市名変更に関する意見 ○意見募集の案内
平成 23 年 11 月号	意見募集の結果報告 ○市名検討に関する意見募集(募集期間:5 月~7 月)の提出状況 ○提出された主な意見(要旨は下記(6)のとおり) 「丹波篠山市」に変更する方がよい」 61.0% 「篠山市」のままでよい」 28.8% 「その他」の意見」 10.2%

(4) 市民からの意見募集 (平成 23 年 5 月~7 月)

- ①募集方法 上記市広報 6 月号、HP で募集 (提出様式は任意)
- ②募集締め切り 平成 23 年 7 月 29 日 (金)
- ③意見募集の提出状況

	個人		共同		団体		合計		
	提出数	意見数	提出数	意見数	提出数	意見数	提出数	意見数	%
「丹波篠山市」に変更した方がよい	77	77	270	10	2	2	349	89	61.0
「篠山市」のままでよい	40	40	4	2	0	0	44	42	28.8
その他の意見	15	15	0	0	0	0	15	15	10.2
合計	132	132	274	12	2	2	408	146	100.0

※個人…1 人が 1 件の意見を提出、共同…2 人以上が 1 件の意見を提出、団体…1 団体が 1 件の意見を提出

④提出いただいた主な意見の要旨

<p>《丹波篠山市に変更する方がよい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お国は、と問われて、ほとんどの方が愛着ある丹波篠山と答える。先人が育てこられた郷土愛を受け継ぐために、この際、費用を使ってでも市名変更を市民に問うべきだ。 ・篠山市のみでは全国的にも将来的にも不利が考えられ、多少のリスクを覚悟の上で、ぜひ、この機に丹波篠山市に変更すべき。 ・丹波篠山市に希望の未来を感じる。
<p>《篠山市のままでよい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波市と混同されるからといって容易に丹波篠山市とする必要はない。篠山は、私たちの先駆者が築きあげたすばらしい由緒ある名称である。 ・市の名称を変更すると、あらゆる人・団体などに混乱と費用の負担を強い、迷惑をかける。 ・やらないよりやった方がよい、というレベルの話で、財政難の中、多大な費用をかけて改名する必要はない。
<p>《その他の意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市名変更の検討」について、ただの「ネーミングの変更」ではなくて、「より強い自

治体になるための、内容も含めて考え直すブランド戦略の一環」として考えると、これはよいきっかけであり、大いに研究、議論するべき問題だと思う。
・広く市民の意見を聴き、賛成・反対それぞれの意見の立場から議論を重ねていくことが大事だと思う。

(5) 篠山市の市名を考える検討委員会 (平成 24 年 8 月～平成 26 年 3 月)

市長への報告	平成 26 年 3 月 31 日
検討の内容	各種団体に所属しておられる市民の方を中心に、平成 26 年 2 月まで計 5 回の委員会を開催。市名を変更することに賛成、反対という議論ではなく、今後の市民、議会における議論、判断等へ有益につながる論拠の整理と明確化に努めた。
検討結果	まとめとして以下の見解が示された。 「市の最優先課題である財政再建の見通しが立ってから行うべき」との意見も多く、財政再建や丹波篠山ブランドの強化・啓発活動の進展状況を勘案しながら適切な時期に検討を行うことが望ましいと考える。」 「さまざまな協議や検討を行った結果、『丹波篠山ブランドの強化・定着・維持』そして『篠山市の知名度の向上』をめざす方向性で今後議論を進めていくことが、市民のメリットになると判断した。」

(6) 商工会、JA、観光協会からの要望書 (平成 29 年 2 月)

提出日	平成 29 年 2 月 7 日
要望の要旨	『丹波』という呼称が、丹波地域を指すのか、丹波市を指すのか曖昧になってきており、観光面やブランド名で混乱が生じている。その混乱を解消するとともに、『丹波篠山』というブランドの知名度を生かした特産や観光振興のためにも、市名を『丹波篠山市』に変更するよう検討をしてほしい。

(7) 市名に関する混同・誤解の状況調査

要望書を受けて、丹波市発足以降、篠山市においてどのような混乱、混同、誤解が生じているのか、また市名を変更することでどのような効果が想定されるのか、要望書を提出した 3 団体と市役所で、状況調査を実施。その結果を持ち寄り、今後の動向について 4 者で協議を行う予定。(4 月中)

(混同・誤解の一例)

- ・兵庫県が発行、監修した印刷物の中での混同
- ・丹波県民局、丹波市の事業・施設名
- ・観光客が丹波市を篠山市と間違えて訪問
- ・篠山の特産品を「丹波市」産と間違われた
- ・テレビ番組などで、「丹波篠山」として「丹波市」内の紹介をしていた

平成 15 年 7 月 16 日

氷上郡合併協議会 御 中

要望する者は別紙のとおり

要 望 書

氷上郡合併による新市名「丹波市」について、再考を求めたく要望いたします。

その理由について

氷上郡合併協議会が決められた新市名「丹波市」について、多くの篠山市民が困惑し、また京都府綾部市、丹波町などからも反発の声があがっています。

丹波市に決定された理由は「そのブランド力」「知名度」「地理的条件」とされています。しかし、ブランド力や知名度は氷上郡のみならず、ここ丹波地方の各市町村の官民一体となった長年の努力により育まれたものであることは言うまでもありません。

しかも丹波とは京都府を含め広大な地域の総称であり、その総称のもと数え切れない歴史が刻まれてきました。

丹波焼・丹波黒大豆・丹波栗をはじめ特産のほとんどが「丹波」という名をつけていますし、私たちの社会生活も丹波の森構想をはじめ、丹波地区・丹波ブロック等々この「丹波」と言う名のもとに育ってきました。

このような現実を考えると氷上郡のみが広域の共有名である丹波を「丹波市」として名乗られる事による消費者の混乱、生活の不都合、地域産業への不利益は避けられません。

これからも丹波の名は丹波全地域が共有してゆくものであり、共有してこそ、より一層丹波の魅力が向上するものと信じています。

私たちはすでに合併協議会に対して市名再考の要望書を提出していますが、なんら回答もないのが現状です。

今、私たちは氷上郡民のみなさんお一人お一人に強く新市名の再考を要望いたします。

新市が住民の皆様からも周辺からも祝福されて誕生されることを願っています。

以 上

		住 所	代表者
1	篠山観光協会	篠山市北新町41 商工観光課内	圓増 亮介
2	丹波ささやま農業協同組合	〃 大沢竹安の坪438	仲井 厚史
3	篠山市商工会協議会	〃 北新町97	松下 洋一
4	篠山市商工会青年部協議会	〃 〃	森 博一
5	丹波立杭陶磁器協同組合	〃 今田町上立杭3	清水 俊彦
6	丹波杜氏組合	〃 北新町41 商工観光課内	小林 信男
7	綾部市観光協会	綾部市駅前通り東石ヶ坪11-4	村上 克壽
8	西紀観光協会	篠山市宮田113	細見 勉
9	丹波篠山稲作経営者会議	〃 和田217	石田 成正
10	篠山市旅館組合	〃 二階町79	藤井 恵一
11	篠山市飲食業組合	〃 火打岩495-1	岩本 喜樹
12	篠山市菓子工業組合	〃 東新町214	小林 甫
13	篠山市食品衛生協会	〃 〃	〃
14	黒豆の館とつばち協会	〃 下板井511-2	細見 右司
15	波部黒大豆保存会	〃 日置145	福井 武治
16	味間茶連絡協議会	〃 味間奥1313	原 重男
17	栗柄製茶組合	〃 栗柄1306	石田 尚
18	後川特産物加工組合	〃 後川上7	小嶋 好治
19	丹波旬の市販売協議会	〃 吹新117-4	雪岡 剛太郎
20	丹波篠山溪谷の森公園	〃 後川上1170	今西 美実
21	ハートピア青空市協議会	〃 細工所117 ハートピアセンター内	堀江 溢雄
22	小多田生産組合ふれあい農園	〃 小多田1321	小島 琢弥
23	西紀ビーンズジュース生産組合	〃 本郷1301	細見 怜子
24	篠山市商店街連合会	〃 二階町58-2 篠山商工会内	足立 義則
25	篠山市雇用促進協議会	〃 北新町97 商工会協議会内	梶原 康弘
26	篠山市建築組合	〃 宮田248-1 篠山市技能高等学院内	森田 新治
27	篠山市建設工業協同組合	〃 立町196-1	武部 正男
28	篠山市建設事業協同組合	〃 風深75-1 城西ビル2階	波部 勝幸
29	篠山市医師会	〃 波賀野新田135	西井 一雄
30	篠山市薬剤師会	〃 黒岡304-5	藤本 善一
31	篠山市図書納入協力会	〃 魚屋町8	小山 芳弘
32	多紀糧穀事業協同組合	〃 魚屋町45	河田 知一
33	よさこいソーラン丹波篠山楽空間	〃 今田町今田359	藤森 欣昭

氷上郡民のみなさんへ

氷上郡合併協議会が決められた新市名「丹波市」について、多くの篠山市民が困惑し、

また京都府綾部市、丹波町などからも反発の声があがっています。丹波市に決定された理由は

「そのブランド力」「知名度」「地理的条件」とされています。しかしブランド力や知名度は氷上郡のみならず、

ここ丹波地方の各市町村の官民一体となった長年の努力により育まれたものであることも言うまでもありません。

しかも丹波とは京都府を含め広大な地域の総称であり、その総称のもと教え切れない歴史が刻まれてきました。

丹波黒大豆・丹波栗・丹波焼をはじめ、特産のほとんどが「丹波」という名をつけていますし、

私たちの社会生活も丹波の森構想をはじめ、丹波地区、丹波ブロック等々

この「丹波」と言う名のもとに育ってきました。このような現実を考えると

氷上郡のみが広域の共有名である丹波を「丹波市」として名乗られる事による消費者の混乱、

生活の不都合、地域産業への不利益は避けられません。これからも丹波の名は丹波全地域が共有してゆくものであり、

共有してこそ、より一層丹波の魅力が向上するものと信じています。私たちはすでに合併協議会に対して市名再考の要望書を提出していますが、

ならん回答すらありません。今、私たちは氷上郡民のみなさんお一人お一人に

強く新市名の再考を要望いたします。新市が住民の皆様からも周辺からも祝福されて誕生されることを願っています。



- 篠山 観光協会
- 丹波ささやま農業協同組合
- 篠山市商工会協議会
- 篠山市商工会青年部連絡協議会
- 丹波立杭陶磁器協同組合
- 丹波市杜氏組合
- 綾部市観光協会
- 西紀市観光協会
- 丹波篠山稲作経営者会議
- 篠山市旅館組合
- 篠山市飲食業組合
- 篠山市菓子工業組合
- 篠山市食品衛生協会
- 黒豆の館とつばち協会
- 波部黒大豆保存会
- 味問茶連絡協議会
- 栗柄製茶組合
- 後川特産物加工組合
- 丹波旬市販売協議会
- 丹波篠山緑地の森公園
- ハートピア青空市協議会
- 小多田ふれあい農園
- 西紀ビュースペース生産組合
- 篠山商店街連合会
- 篠山市雇用促進協議会
- 篠山市建築組合
- 篠山市建設工業協同組合
- 篠山市建設事業協同組合
- 篠山市医師会
- 篠山市薬剤師会
- 篠山市書店組合
- 多紀糧穀事業協同組合
- よさこいシーラン丹波篠山楽空間
- （顔不問）

意見広告

みんなで
「丹波」を
育もう!!

篠山市の 市名を考える

問い合わせ
企画課 ☎ 552-5106

検討
■市名改称問題検討プロジェクトチーム■

市名変更の是非と今後の取り組みについて

篠山市商工会青年部を中心とした駅名、インターチェンジ改称運動をきっかけに広がった市名変更問題。

市では、「丹波篠山市」への名称変更に対し、市名の考え方や変更した場合の効果や費用、市民の負担などを検討するため、平成22年6月に「市名改称問題検討プロジェクトチーム」を設置しました。

ここでは、プロジェクトチームの報告書をもとに、篠山市の市名変更の是非について考えます。

駅名・インターチェンジ 名称の改称運動

現在の篠山市という市名は、旧多紀郡4町の合併協議会で協議・決定しました。平成11年4月1日から使用し、本年で13年目を迎えています。

そのような中、平成16年には隣接の旧水上市が新市名を「丹波市」に決定し、翌年には京都府の旧瑞穂町・丹波町・和知町が合併して京丹波町が誕生。「丹波」の名を付けた自治体が相次ぎ登場することになりました。

そのため、篠山市を訪れる皆さんにとって、市の玄関口であり、情報発信拠点であるJRの駅と国道沿いのインターチェンジの名称が「篠山」から「丹波篠山」に変わるとは嬉しいはず、困惑されている状況もあります。また、ほかの地域で「丹波篠山」と間違われて訪問されていることは篠山市にとっても大きな損失となっています。

このような状況を受けて

平成20年6月11日、篠山市商工会青年部、篠山市商工会、丹波をさやま農業協同組合、丹波篠山観光協会、の4団体から、駅名とインターチェ

市名変更に向けた
賛成と現状維持
それぞれの意見

賛成の意見

- 丹波という名は「丹波篠山」「篠山」というイメージがあったが、丹波市は誕生以来、丹波といえは丹波市を指すようになっただけで、観光、農産物販売、地域発展に不利な影響は出ていない。
- 「丹波」の名は、豊かな農産物に代表される良いイメージで、安心、本物、質が高い、森林、おいしいなど、全国に通用する地域ブランドとして育っている。「丹波」のイメージが、丹波市のものである。
- 全国で広く行われて丹波篠山は知られていない。篠山は知られていない。
- 篠山は他市の方から「のやま」と読まれ、読まなくていい。

ンシ名の変更の要望書が篠山市長や篠山市議会において提出されました。この要望書の提出が契機となり、現在、市名変更を求める運動へつながっています。

市では、平成22年度において市職員による「市名改称問題検討プロジェクトチーム」を設置しました。プロジェクトチームでは、市名の位置付けや「丹波篠山」の位置付け、丹波篠山市へ変更した場合に想定される効果や費用、市民の皆さんの負担などの論点を整理を行いました。

「市名改称問題検討プロジェクトチーム」設置

市名改称問題検討プロジェクトチームは、平成22年度において市職員による「市名改称問題検討プロジェクトチーム」を設置しました。プロジェクトチームでは、市名の位置付けや「丹波篠山」の位置付け、丹波篠山市へ変更した場合に想定される効果や費用、市民の皆さんの負担などの論点を整理を行いました。

市名改称問題検討プロジェクトチームは、平成22年度において市職員による「市名改称問題検討プロジェクトチーム」を設置しました。プロジェクトチームでは、市名の位置付けや「丹波篠山」の位置付け、丹波篠山市へ変更した場合に想定される効果や費用、市民の皆さんの負担などの論点を整理を行いました。

市名の位置づけ

全国で名称変更のきっかけとなったのは、市町村制の施行や市町村合併と同時に改称したところが多いです。それ以外に名称を変更したのは、昭和34年の愛知県津島市が豊田市に、平成2年の北海道東川町が利尻町に、平成4年の東京都新島本村が新島村に変更した事例だけとなります。

「丹波篠山」の位置付け

地域ブランド力調査2010（日経リサーチ・地域ブランド戦略サーベイ）によると、「丹波篠山」は各地の各産物マン

キングで全国6位に、果物を除くと全国1位にランクインしています。この調査でも分かるように「丹波」という名称は、観光地や農産物などの地域ブランドとして使用され、全国的にも非常に高い知名度を誇っています。

市名変更の影響

市名変更による影響として、市では市のコンピュータシステムや公共施設路板の改修費など約6千万円が必要となります。一方、市内の企業では住所の変更や看板の改修、また市民の皆さんにも住所変更や市名への慣れといった心情的な負担がかかります。



募集中

皆様のご意見をお聴かせください

- 提出期限 7月29日(金)まで
- 応募対象
 - ①市内在住・在勤・在学または市内で活動・事業を営む方
 - ②その他、市名変更に関心のある方
- 応募方法
 - 任意様式により住所、氏名、市名変更に関する意見を記入して、次のいずれかの方法で提出してください
 - 来庁による提出 企画課（市役所本庁舎3階）または支所窓口
 - 郵送（〒669-2397・篠山市北新町41番地 企画課あて）
 - FAX（552-5665・企画課あて）
 - 電子メール（kikaku_div@city.sasayama.hyogo.jp）

今後のスケジュール

市では、市職員による「市名改称問題検討プロジェクトチーム」の報告をもとに、市民の皆さんの意向を把握しながら、その方向性を見出ししていきます。

具体的な時期と内容

- ①市広報「丹波篠山」6月号での意見募集
[5月20日発行]



- ②市民アンケート（無作為抽出）による意向調査などの意見収集
[9月ごろ]



- ③市の方針を検討



「篠山市」の市名を考える

～意見募集の結果についてお知らせします～



市名を考える意見 (主な意見)

「丹波篠山市」に変更する方がよい

- お国はと問われて、ほとんどの方が愛着ある丹波篠山と答われます。丹波篠山人は自身の潜在意識に目覚めるときであると思います。先人が育ててこられた郷土愛を受け継ぐために、この際、費用を使ってでも市名変更を市民に問うべきです。
- 氷上郡が丹波市となるとは予想してなかった。篠山市のみでは全国的にも将来的にも不利が考えられ、多少のリスクを覚悟の上で、ぜひこの機に丹波篠山市に変更するべきと考えます。丹波篠山市こそ、我々が全国に誇れる市名です。
- 丹波篠山市に希望の未来を感じる。市外に出ると篠山市の知名度は予想以上に低いのは明らかです。特産物、伝統や文化も丹波の国の時代から受け継がれたものが多く、市民が大切に、丹波篠山のイメージを大きく創り上げてきました。今ある丹波篠山の財産を最大限に生かすときです。
- 丹波の地域ブランドについて、丹波市が誕生したことにより、丹波市がその中心(本場)であるとの認識が広がっており、特に農産物や観光面で大きな不利益となっている。
- 篠山よりも丹波篠山の方が広く知られている。丹波篠山と言えば県外の人にも広く通じるが、篠山は県内の人でも「しのやま」と読むなどあまり知られていない。
- 丹波篠山の4文字は、ただそれだけで金額ではあわしきれない莫大な高価値を有する言葉である。
- 配送で各地に行きますが、篠山から来ましたと伝えても反応が薄く、丹波篠山からといえば伝わり、丹波の知名度でなければと思う昨今です。ぜひ、丹波篠山に変更していただきたい。
- 将来的なことを考えると市名変更による効果はものすごくあると思います。必ず実現してください。

「篠山市」のままでよい

- 丹波市と混同されるからといって容易に丹波篠山市とする必要はない。篠山は、私たちの先祖者が築きあげたすばらしい由緒ある名称である。
- 市の名称を変更すると、あらゆる人、団体などに混乱と費用の負担を強い、迷惑をかける。
- やらないよりやった方がよいというレベルの話で、財政難の中、多大な費用をかけて改名する必要はないです。
- 丹波篠山市にするのは、丹波市が本場で、丹波篠山市は「従」という印象が強くなります。
- 丹波篠山という呼称は、従来どおり愛称として使えば良い訳で、市が多額の費用と労力を負担してまで市名変更をする必然性はないと考えています。
- 市名を変えなければならないような「危急存亡」に関わる重大な理由が全くない。篠山市のどこが悪いのか。変えなければならないような欠点は何ひとつとして見当たらない。
- 「変更すべき」と考える方は積極的に意見を出されているのですが、少なく感じます。「変更しなくてよい」と考える方はたくさんおられると思いますが、わざわざ意見を出されたいと思います。

その他の意見

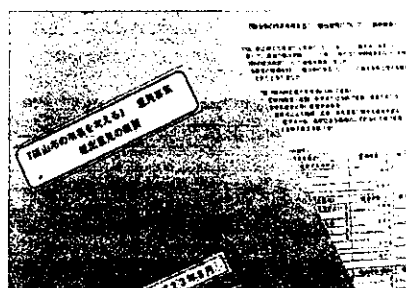
- 「市名変更の検討」について、ただの「ネーミングの変更」ではなくて、「より強い自治体になるための、内容も含めて考え直すブランド戦略の一環」として考えると、これは良いきっかけであり、おおいに研究、議論すべき問題だと思います。
- 広く市民の意見を聞き、賛成、反対それぞれの意見の立場から議論を重ねていくことが大事だと思います。
- 新聞によると「市名検討に待った」と題して記載されていた。市名変更検討のための市民アンケート実施に市議会が「NO(ノー)」を決めた。これは非常に残念でなりません。



「篠山市」誕生以降、近隣地域で「丹波」が付く自治体の誕生や市議会での質問などにより、市名改称を求める声がありました。そこで、市広報6月号で庁内プロジェクトの調査概要を報告し、市名に関する意見を募集しました。

今後の議論の参考とするため、今回、皆さんからお寄せいただいた意見の概要をお知らせします。

問い合わせ 企画課 ☎552-5106



意見募集の概要
 今回の意見募集では、5月下旬から7月下旬までの約2カ月の間に406人と2団体の方から、146件のご意見をいただきました(下表)。提出者の内訳は、個人提出が132人(132件)、共同提出が274人(12件)、団体提出が2団体(2件)で、146件の意見のうち、「丹波篠山市」に変更する方がよいが89件、「篠山市」のままでよいが42件、その他の意見が15件となっております。次のページでは、これらの主なご意見を紹介します。なお、皆さんからお寄せいただいたご意見は、企画課(市役所本庁舎3階)各支所、中央図書館、市民センター図書コーナーで閲覧いただけます。

意見募集の提出状況

	個人		共同		団体		合計	
	提出数	意見数	提出数	意見数	提出数	意見数	提出数	意見数
「丹波篠山市」に変更する方がよい	77	77	270	10	2	2	349	89
「篠山市」のままでよい	40	40	4	2	0	0	44	42
その他の意見	15	15	0	0	0	0	15	15
合計	132	132	274	12	2	2	408	146

※個人…1人が1件の意見を提出、共同…2人以上が1件の意見を提出、団体…1団体が1件の意見を提出